

長野県観光の将来ビジョンにつながるもの
(1月及び本日の2回のワールド・カフェを踏まえた たたき台)

☆ 主語を他の地域に置き換えると通用しない、長野県らしい、長野県ならではの戦略を展開する。

1. 地域経済への寄与

人の流動が地域の消費拡大に結びつき、生産者・加工業者まで潤う地域経済の循環を構築し、経済効果の最大化を図ることが重要である。このため、観光に関わる幅広い事業者がお互いの素材やサービスを知り、相互に利益をもたらし合う仕組みづくりが求められる。

また、観光産業を「雇用を生む場」、特に若い人が働きたくなる場となるよう育成していく必要がある。

同時に、訴求する対象を明確にして、女性、消費者といったエンドユーザーの視点を強く意識することが重要であるとともに、ストーリー（物語性）やレジェンド（伝説性）といった要素が他との差別化には欠かせない。

2. 観光地域づくり

価値観やライフスタイルが多様化した今、観光の形態も、名所を訪れるこれまでの形態から、その土地のありのままの暮らしを楽しむ形態へと変化してきている。このような流れを活かすためには、「施設顧客」を「地域顧客」に転換していく観光地域づくりの取組みが重要であり、この取組みを各地で牽引する人材の育成と、多様な主体が企画や販売に参画する拠点づくりを進める必要がある。

また、①美しく ②楽しく ③幸せな地域には、多くの人が訪れることから、「住んでよし」の地域づくりを様々な分野の施策を投入して進める必要がある。

3. 強みを活かし、弱みを転換

長野県の強みは、雄大な自然、美しい農村や里山、美術館・博物館等の文化資源、山岳観光、世界トップクラスの健康長寿、ものづくりの高い技術、豊かな食文化などお金では買えない価値にこそある。特に「健康長寿」は、長野県民が長い歴史の中で厳しい環境を克服しながら築いてきた第一級の価値であり、ヘルスツーリズムや健康食、スポーツなど様々な形で観光にも活かすことができる。「信州で美しく生きる」といったメッセージも効果的である。

加えて、日本人の暮らし方そのものが問い直されている現在、長野県は多くの方に新しい時代のライフスタイルを提案できる環境を有している。また、大都市圏からのアクセスの良さは、「程よく便利で味わい深い田舎」を提供している。

これらの多彩な地域素材を活かして、観光と他分野との融合によるエコ、ヘルス、グリーンなど新しい形態のツーリズムを商品化し、可能性を拓いていくという視点が重要である。

また、観光にとって重要な要素の「おもてなし」については、観光関係者だけでなく、幅広い業種、県民がオール長野で取り組んでいかなければならない。そのための新しい仕組みを考案し、おもてなしの心を大切にする県であることをアピールしていくことが重要である。

4. 外客誘致

訪日外国人旅行者を一層増加させていくためには、これまでの延長線上の取り組みでは不十分で、

- ・アジアを中心とした新規市場の獲得、
- ・新しい形態のツーリズムの普及・活用
- ・ターゲットの特性に応じた誘引策、
- ・長野県独自のランドオペレーター機能の創設、
- ・拠点空港からの円滑な移動手段の構築
- ・言葉の障壁の緩和 など

思い切った施策展開を官民連携で行う必要がある。

また、健康長寿やスノーリゾート、温泉など長野県の強みを改めて分析し、根拠を持った説得力のあるアピールが求められる。

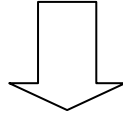
5. ブランド戦略

長野県には多様な魅力があるが、それを各地域や各主体がそれぞれに発信しているため、その成果の積み上がりが少ない。多様な魅力を信州・長野県として統一感を持って効果的に発信することが、目的地として選ばれる続ける重要な戦略になる。そのため、一過性のブームでは終わらない本質的なブランド戦略を展開して、プロモーション戦略も再構築するとともに、顧客の期待を裏切らない質の高いサービスを提供していく必要がある。

また、長野県は多彩な魅力がありながら、地元がそれに気づいていないという現状がある。外部の視点も活かしながら、信州観光の宝につながる「原石」を発見し、磨き上げる仕組みも重要である。

6. その他の大切な視点

- ・ 長野県観光の状況を把握する方法として、「入込客数」よりも「消費額」の視点が重要である。このことによってこそ、質の高い、持続可能なサービスを維持できる。



戦略を踏まえた戦術につなげる

◎ 本日第2フェーズ（戦術）の議論で出されたヒント

- ・ おもてなし日本一のモデル県に
- ・ 住民も買いたいと思いきオリティの高い土産品開発
- ・ 湯治場の復権
- ・ 保育園、幼稚園、小学校で「観光」「地元学習」を素材にした教本 授業
- ・ 新幹線駅からの2次交通の整備とミニ観光圏
- ・ リフト券を電子マネー化し、売店で活用
- ・ おもてなしの評価基準の作成とおもてなしの心の普及
- ・ 介護予防事業と観光のコラボレーション
- ・ 市町村を広域的に連携させた周遊商品づくり
- ・ おしゃれして歩ける田舎づくり
- ・ 各戦略に横串をさす戦術 ex.おもてなし
- ・ 学生さんに観光ガイドをやってもらう
- ・ 県庁各課でおもてなし宣言と実践
- ・ 観光×〇〇はどんな分野でも可能
- ・ 山と言えば長野県 山岳観光の振興 山ガール
- ・ ワンストップで情報発信を
- ・ 観光地域づくり 官民協働のプラットフォーム マーケティング部門で評価→公表
- ・ 地産地消には行政の支援策を
- ・ こどもがきちんと挨拶できる地域はブランド地域

などなど、盛りだくさんの提案をいただきました。

ありがとうございました。